

倫理委員会審議申請書

祐生会みどりヶ丘病院
倫理委員会 委員長殿

2024 年 11 月 19 日

申請者

所属 リハビリテーション部

氏名 宮本 波瑠

所属長 橋本 裕之



下記について審査を申請します

記

懸案事項

入院以前の生活環境の違いによる入院中の認知機能の変化に対する調査

懸案事項に関する概要

はじめに:入院に伴う認知機能の低下は広く懸念されている。中川ら¹⁾は認知症患者においてADLと基本的動作能力の低下が認知機能に及ぼす可能性を示唆した。先行研究²⁾において入院時の身体機能・認知機能評価と退院先との関連についての検討が行われている。しかしながら入院時の生活環境の違いによって入院中の認知機能の変化を検討した報告は少なく一般化されていない³⁾。

方法:B4病棟に入院している75歳以上の患者に対してBarthel Index、長谷川簡易評価スケール、TMTパターンAを用いて病棟ADL、認知機能について評価する。

対象は75歳以上の当院B4病棟入院加療中の患者とし(1)入院時、(2)入院後2週間経過時の2度評価を行う。対象を入院時の生活環境に応じて、i 独居、ii 夫婦2人暮らし、iii 他者の援助を受けて生活している、の3群に分類し3群間での比較、検討を行なう。

文献

1) 中川敬汰,北風草介,他:療養病院入院中の軽度から中等度の認知症患者において、日常生活活動と基本的動作能力の低下が認知機能に及ぼす影響.理学療法臨床と研究;2021;30:90-93.

2) 梅垣宏行,野村秀樹,他:大学病院老年科病棟における入院時総合機能評価と退院先との関係の検討.日老医誌;2002;39;75-82.

3) 稲川みづ江,泉キヨ子,他:一般病棟に入院中の高齢患者における生活機能の変化に影響する要因.老年看護学;2012;16(2);47-56.

倫理上の問題点

患者に対する侵襲はありません。

同意書に同意を得られた患者を対象に行います。また同意の取り下げはいつでも可能とし、それによって不利益を被らないものとします。

個人情報情報を匿名化し適切に処理します。

時間のかかる評価ではないためスタッフ負担も少ないと考えます。

倫理審査結果通知書

申請者 宮本 波瑠 殿

2024 年 11 月 22 日

倫理委員会委員長

西 宏



印

受付番号 2024014

記

審議名 入院以前の生活環境の違いによる入院中の認知機能の変化に対する調査

上記にかかる審議を 2024 年 11 月 22 日 の倫理委医会で審査し、
下記のとおり判定しましたので通知します。

判定 非該当 承認 条件付承認 変更の勧告 不承認

理由

認知機能の評価は、通常的に行われており、患者に対する侵襲はなく、患者名を匿名化するため、個人情報漏洩の危険性は低い。
同意を得られた患者に対し調査を実施し、オプトアウトについても説明がされている。

その他

個人情報の漏えいが無いように取扱いに注意すること。